

氏名	田中 健一	部署	共通教育科	職名	教授
研究分野	神経科学（生理学・薬理学・病態生化学・実験心理学）・社会薬学				
学位	博士（医学）・薬学修士				
学歴	1989年：東京理科大学薬学部薬学科卒業，1991年：東京理科大学大学院薬学研究科薬学専攻修士課程修了				
経歴	1995年：埼玉医科大学医学部助手，1998年：岡山大学医学部助手，2003年：就実大学薬学部助教授，2007年：就実大学准教授，2011年：埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授，2019年：同教授，現在に至る				
所属学会（役職）	日本生理学会（評議員）・日本薬理学会（学術評議員）・日本神経精神薬理学会（評議員），日本社会薬学会（代議員）他				

【2025年度実績】

1. 研究業績									
(1) 著作									
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名		発行等年月	
1	該当なし								
(2) 論文									
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名		発表等年月	
1	Controlling Joint Instability Reduces Inflammatory Pain in Early Knee Osteoarthritis	共著	あり	○	Cureus 10.7759/cureus.87711	Aya Kuroo, Kenji Murata, Yuri Morishita, Katsuya Onitsuka, Yuichiro Oka, <u>Ken-ichi Tanaka</u> , Naohiko Kanemura		2025.7	
(3) 学会発表									
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）			発表等年月	
1	該当なし								
(4) その他									
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）			発表等年月	
1	該当なし								
2. 競争的資金等の研究									
	競争的資金等の名称		研究名		研究代表者・研究分担者の別			研究期間	
1	該当なし								
3. 教育業績									
(1) 講義									
	講義の名称	科目責任者	コマ数		概要（教育内容・方法等において工夫した点）				
1	生理学	○	16*2開講		複数の学科専攻の学生を対象とした必修科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。2025年度は対面授業にオンデマンド配信を組合せたハイブリッド型授業で実施することで教育効果の向上を試みた。				
2	薬理学	○	8		健康開発学科の学生を対象とした必修科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。2025年度は対面授業にオンデマンド教材での補講を組合せることで教育効果の向上を試みた。				
3	看護薬理学	○	16		看護学科の専門必修科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。2025年度は対面授業にオンデマンド教材での補講を組合せることで教育効果の向上を試みた。				

4	臨床薬学	○	8	理学療法学科及び作業療法学科の学生を対象とした必修科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。2025年度は対面授業にオンデマンド教材での補講を組合せることで教育効果の向上を試みた。
5	生理学特論	○	16	生理学を踏まえた理学療法学科並びに作業療法学科の専門必修科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。2025年度は対面授業にオンデマンド教材での補講を組合せることで教育効果の向上を試みた。
6	ヒューマンケア論		1*2開講	IPE科目の入門科目として、全学科全専攻の1年生に向けた授業の中で、保健医療福祉分野における、専門職やその学問領域の意義・使命・役割を理解する一環として、ダイバーシティについて、ゲストスピーカーの講演に加えて、ダイバーシティ推進委員会を代表して、本学におけるダイバーシティの取組について講義した。
7	保健医療福祉研究法特論		2	大学院博士前期課程の共通科目であることに加えて、2コマのみ分担する点を考慮して、特定のテーマ<医科学研究法>に絞って授業を行うことで、学生の理解を助ける工夫と学習意欲の維持に努めた。2025年度はオンデマンド配信による遠隔授業で実施した。なお、科目責任者のため、1回目授業にて、総論的な授業も担当した。
8	応用人体構造機能論		2	大学院博士前期課程の共通科目であることに加えて、2コマのみ分担する点を考慮して、特定のテーマ<自律神経系>に絞って授業を行うことで、院生の理解を助ける工夫と学習意欲の維持に努めた。2025年度はオンデマンド配信による遠隔授業で実施した。
9	保健医療福祉学際英語		1	大学院博士前期課程の共通科目であることに加えて、1コマのみ分担する点を考慮して、特定のテーマ<実践編1>に絞って授業を行うことで、院生の理解を助ける工夫と学習意欲の維持に努めた。
10	高次脳機能と病態制御	○	8	大学院博士前期課程の共通科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、院生のニーズを初回授業で確認し、出来る範囲で授業に反映させて、学習意欲の維持に努めた。2025年度はライブ配信にオンデマンド配信を組合せた遠隔授業で実施した。
11	臨床薬理学	○	8	大学院博士前期課程のCNSコースの必修科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、院生のニーズを初回授業で確認し、出来る範囲で授業に反映させて、学習意欲の維持に努めた。2025年度はオンデマンド配信による遠隔授業で実施した。
12	加齢神経運動機能論	○	4*2開講	大学院博士後期課程の共通科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生のニーズを初回授業で確認し、出来る範囲で授業に反映させて、学習意欲の維持に努めた。2025年度はオンデマンド配信による遠隔授業で実施した。
13	精神保健支援論	○	4*2開講	大学院博士後期課程の共通科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生のニーズを初回授業で確認し、出来る範囲で授業に反映させて、学習意欲の維持に努めた。2025年度はオンデマンド配信による遠隔授業で実施した。また、1開講あたり3コマは原則担当教員全員が参加して、アクティブラーニングの手法を用いて、理解を深められるように工夫した。

(2) 演習					
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	理学療法特別演習		1	理学療法学科の4年生を対象とした国家試験対策を意識した専門必修科目で、1コマだけ、生理学等について担当した。過去問ベースの練習問題を作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。	
2	作業療法総合演習		1	作業療法学科の4年生を対象とした国家試験対策を意識した専門必修科目で、1コマだけ、生理学等について担当した。過去問ベースの練習問題を作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。	
(3) 実習					
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	生理学実習（理学療法・作業療法）	○	8	理学療法学科及び作業療法学科向けの内容で、学生が興味を持って実習できるように内容を工夫するとともに、基盤となる座学の知識と結びつくような指導を心掛けた。2025年度はコロナ禍対策から脱却し、内容をより進化させた上で、対面と自宅のハイブリッド型実習方式による新たな実習を試みることで教育効果の向上を狙った。	
2	生理学実習（健康行動）	○	8	健康開発学科行動科学専攻向けの内容で、学生が興味を持って実習できるように内容を工夫するとともに、基盤となる座学の知識と結びつくような指導を心掛けた。2025年度はコロナ禍対策から脱却し、内容をより進化させた上で、対面と自宅のハイブリッド型実習方式による新たな実習を試みることで教育効果の向上を狙った。	
3	ヒューマンケア体験実習	○	2025.4-9	科目責任者として第11グループを総括するとともに、総括・主任科目責任者を補佐した。2025年度も実際に実習施設にて実施した。	
(4) 論文指導					
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数		
1	卒業論文	通年	主指導 0名	副指導 0名	
2	修士論文	通年	主指導（指導教員） 1名	副指導（指導補助教員） 0名	
3	博士論文	通年	主指導（指導教員） 1名	副指導（指導補助教員） 4名	
(5) その他					
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	埼玉県立大学における生理学・薬理学等の基礎医学科目に関する学習支援	通年	再履修の学生を中心に、授業時間外の補習授業の実施と学習支援のための指導を行っている。		
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月	
1	春日部市民講座	春日部市教育委員会	あなたの知らない“お薬”の話	2025/11/29	
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期	
1	日本生理学会		第103回大会運営委員	2024-5年度	
(3) ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称			内容	年月
1	該当なし				
(4) その他					
	項目	相手方等	内容		期間
1	該当なし				

5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	副学長兼学部長	2025年度
2	全学的委員会及びセンター業務等	教育研究審議会委員	2025年度
3	全学的委員会及びセンター業務等	ダイバーシティ推進委員会委員長	2025年度
4	全学的委員会及びセンター業務等	研究倫理委員会委員長（兼人部門部門長兼動物部門部門長）	2025年度
5	全学的委員会及びセンター業務等	入試委員会委員（兼学部試験問題作成部会部会長兼入試制度改革検討小委員会委員長）	2025年度
6	全学的委員会及びセンター業務等	県大 DX ワーキンググループ委員	2025年度
7	大学広報活動	オープンキャンパスへの参加（6月・8月）	2025年度
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		